

コロナキカイ

100



平成11年創刊から100号に至るまで

特集



平成20年 第38号から
4段編成にリニューアル
(文字が大きくなりました)



平成11年 創刊号発行
(当時は5段編成でスタート)



市民の皆さまの素敵な笑顔が表紙写真に！



100号の発刊に想う

市長 北 猛俊



市議会だよりが、記念すべき100号の発刊を迎えられましたこと、まことに喜ばしくお祝い申し上げます。

創刊号が発行されたのは平成11年8月でありましたが「広域での介護認定審査会共同設置に同意」した6月定例会を伝えるものでした。

当時議員でありました私を含め議会広報特別委員7名で編集にあたりましたが、もとより未経験のものばかりであり、試行錯誤の作業が続きました。

限られた紙面の中で議会の仕組みや活動を読みやすく、解りやすく伝えるために、短くても読んでわかる表題や、読み進める目線を意識した割付に苦心したことが思い出されます。

近年ではインターネットを活用した情報発信に努められておられますが「市議会だより」は、市民の皆様が直接手に取って議会の活動を身近なものとしてご覧いただけることから、今後も中心的な役割を担っていくべきものと考えます。

この100号を通過点とし、良識の府としての議会の伝えられるようさらなる研鑽・努力を続けられますよう祈念しております。

「フラノギカイ」 100号発行に寄せて

議長 黒岩岳雄



市議会だより「フラノギカイ」がこのたび100号を発行することとなり大変嬉しく感じるどころです。富良野市の市制施行は昭和41年5月1日であります。今年で51年になります。平成11年5月までは、富良野市広報「広報ふらの」の中に議会及び行政の情報提供が行われておりました。当時、地方自治体の広報は議会と執行機関がそれぞれ発行、情報提供することが全国的な流れとなっておりました。本市においても慎重な検討を経て議会広報の単独発行の決断を致しました。創刊号は平成11年8月「富良野市議会だより」として発刊されました。幾多の変遷を経てまいりましたが、特に令和2年11月の91号発刊から「フラノギカイ」として、デザインや写真など大幅に内容を見直した結果、市民の皆様からの高い評価を受けております。今後も議会の広報誌として内容の充実を図っていくことが必要です。

また、広報誌と異なり、臨場感あふれる議場への傍聴をお勧めします。お待ちしております。

富良野市議会「市議会だより」の歩み

特集



「一般質問」(左) 創刊号 (右) 99号「より見やすく、分かりやすく」

「フラノギカイ」ではYouTube動画の配信時間、QRを記載

一般質問で議員が訴えたいことをタイトルに

「議員の名前や顔がわからない？」
市民の声にお応えするため顔写真を入れました



議会の取組みが伝わるように「議会のなかからこんにちは」として発信しています
市民に分かりやすい表現を心掛け、写真を多く取り入れたり、レイアウトの工夫をしています



令和2年11月発行のNo91より「フラノギカイ」として大幅リニューアル
議会のICT化とともに、市民の誰にでも伝わるメッセージの伝え方(デジタルとアナログ)を工夫し「親しみやすい」「手に取ってみよう」「議会を身近に」感じる紙面づくりを目指しています

発刊100号記念に寄せて

発刊当時の
議会広報特別委員会副委員長
横山 久仁雄



「市議会だより」発刊100号に達した事、心よりお祝い申し上げます。初刊が1999年ですから、もう20年が経過したのですね。当時は、地方分権、市町村合併の動きが激しくなり、一方では自治体がその中心を担う介護保険が成立する直前と云う社会背景があり、日本社会のあり様の大きな転換期でありました。その様な中で、地方議会の在り様もまた、大きく問われていました。市民からは議会の活性化、議員活動の見える化を求める声が議会に届けられていました。その様な中で、議会改革特別委員会が設置され、議会・議員の見える化について議論され、「市議会だより」の発行となり、以来20年にわたり発行が続けられ、100号を迎えられ、心より敬意を表したいと思います。

今日は、世界的に拡大する感染症、地球温暖化問題、武力による恐怖等々、市民生活を守る課題は増すばかりです。市民生活の安全を守るために、一層のご活躍を期待しています。

議会を終えて(思い出) 発刊当時の議長

中元 優



この度の発刊100号記念、おめでとうございます。私は富良野市議会議員として昭和54年に1回目として当選し、7回の選挙を行って平成19年4月をもって退任しました。この間、副議長4年、議長を8年の永きに渡り、議員を28年間行いました。家族を初め地域の皆様の力強い支援があつての事と心より感謝をしております。

海外へ2回、国内の多数の地域へ視察に出ましたが、議員になって3期目に北方圏等海外諸国行政視察団に、私たち2名が参加することが出来ました。全く海のかなたには行くことなど思ってもみませんでしたが、当時はアラスカのアンカレッジ経由でヨーロッパへ行く時代でした。次は市民と海外のシュラートミンクを訪問しました。多くの市民の皆さんも高田市長さんを代表に一行は22名で、全員何のトラブルもなく帰宅する事が出来まして安心した訪問でした。

これからも市議会議員の皆さんには、ご活躍を祈念致します。

9012万5千円を原案どおり可決。令和3年度 認定の委員会決定から一転し、原案認定される。

定例会（12月定例会）が11月30日から12月13日までの14日間でひらかれ、

家入	本間	佐藤	今	宇治	天日	日里	後藤	黒岩
○	×	×	×	×	-	○	○	-
○	×	×	×	×	○	○	○	○

提出された主な議案と質疑

令和4年度一般会計補正予算
2億9012万5千円を増額

医療・福祉施設等物価高騰特別支援金給付事業
2255万1千円

事業内容

物価高騰による医療・福祉施設の負担軽減のため、北海道の支援に加え本市独自支援を追加して給付金を支給するものです。

問

支援の対象となる施設は。

答

病院、診療所、薬局、訪問介護、居宅介護、通所介護、入所介護事業所、通所・入所の障害福祉事業所、児童養護施設及び幼児、保育施設が対象である。

固形燃料ボイラー熱供給設備仕様事業費

1198万7千円

事業内容

固形燃料ボイラーの交換用フィルター購入及び調整運転用の電気量及び重油高騰へ対応するための経費です。

問

交換用フィルターは30本購入すると伺っているが、ボイラーには何本設置され、この予算による購入分の設置本数、在庫本数は、またフィルターの耐用年数はどれぐらいか。

答

このボイラーには全部で56本のフィルターが設置され、当初予算分で8月に21本交換済み。その後の点検で未交換フィルター6本に亀裂が生じ、代替として別施設のフィルター転用して対応した。

計上した予算は、交換がされていないフィルターを追加購入するためのものである。現時点で在庫しているフィルターはない。

フィルターの耐用年数については、近隣町村の類似施設では3年に1度交換していると伺っているが、毎年点検を行い必要な交換を行うこととし、稼働状況を勘案しながら、計画的に進めたい。

令和3年度の各会計決算審査について

〔特別委員会からの報告概要〕

令和3年度決算審査特別委員会より、審査経過並びに結果報告を申し上げます。令和4年第3回定例会において、議長と議会選出監査委員を除いた15名の議員で委員会が構成、認定案件8件が付託され、9月に審査日程、要求資料を決定、11月1日、2日、4日の3日間にわたり、各所管部の審査を行い、15日には市長との意見交換を行いました。

審査に際しては、市の厳しい行財政運営の中にあつて、予算が適切に執行され、見込んだ行政効果を上げられたかなどの観点に基づき、慎重に審査を行いました。

一般会計では、商工費のアニメコンテンツ活用誘客促進事業費に質疑が集中し、本事業の目的と誘客促進、本市に特化したアニメの制作や市内観光スポットを紹介することで、国内の新たな年齢層や、アニメファンなどへの希求とともに、海外も含めた配信により、知名度を高め、観光振興を図ることとされています。しかし、目的達成に向け、最小の経費で最大の効果を発揮しようとする観点から取組が不十分であり、本件事業への考え方に相違があることが明らかにになるとともに、コンテンツの内容に、不適切な表現があるとの意見や、本市のイメージ

12月定例会

令和4年度一般会計補正予算2億 一般会計歳入歳出決算は、原案不

12月
定例会

12月定例会

新庁舎議場における初めての定例会として、令和4年第4回各議案の審議が行われました。

○ 認定第1号 令和3年度富良野市一般会計歳入歳出決算の認定における議員別の状況

議員名(議席順)	宮田	渋谷	大西	松下	大栗	関野	石上	小林
決算審査特別委員会	×	×	×	×	○	○	○	○
第4回定例会 本会議	×	×	×	×	○	○	○	○

【凡例】 ○：原案認定 ×：原案不認定 -：委員でない(慣例により、議会選出監査委員と議長は委員から除かれています)

* 上記凡例の後に「裁決」と記載しているのは、委員長並びに議長が裁決した結果となります。

を毀損する恐れがあり、市側の認識配慮に欠けたもので、効果には問題があるなどの意見が出されました。

審査の結果、一般会計は、起立採決の結果、賛否同数となり、委員長裁決により「不認定とすべきもの」と決定し、各特別会計及び企業会計は全会一致で「認定すべきもの」と決定しました。

〔本会議の議論経過〕

11月30日に開会した第4回定例会の本会議では、特別委員会から審査結果の報告を受け、議論が始まりました。

特別委員長への質疑は、コンテンツ内容の表現在決算審査に適するかの点について行われ、コンテンツの成果品を受領した時期(3月)と放映時期(8月)との関係が令和3年度に含まれるか否かを質す内容でありました。

この点について、11月4日の意見交換通告時に委員会運営委員会で令和3年度の内容に限ると決定し、整理したうえで特別委員会での意見交換を行いました。放映を含めて審査すべきであり、発言等を認めてきたと特別委員長から答弁があり質疑は終了しました。

〔討論から採決について〕

討論は、4名の諸君により行われ、不認定の立場からは、予算の議決後から成果品收受の間、誘客促進を効果的にするための取り組みが行われていないこと、成果品の内容に不適切な表現があるにも関わらず、注意を払わず必要な対応をとっていないこと、本市のイメージに合うかの確認や配慮に欠けており、事業の効果を上げられていないとのことでした。

一方、認定の立場からは、本件コンテンツはクラウドファンディング型ふるさと納税を原資としており、多くのファンや本市を応援された方からの寄付で成り立っていること、不適切な表現は、実在しないキャラクターのセリフであり、臓器売買を推奨しておらず、本市のPRとして多くのものが紹介されており、許容されるべき表現であるとのことでした。

また、放映された内容に特化した質疑は、令和3年度の決算審査に相応しくないものであるとのことでした。
討論の終了後、起立により採決が行われ、原案認定8人、原案不認定8人の可否同数のため、地方自治法並びに会議規則の規定により、議長による裁決の結果、認定第1号令和3年度富良野市歳入歳出決算は認定することと決しました。そのほか、認定第2号から第8号までの特別会計歳入歳出決算、企業会計決算については、全会一致で認定と決したところでした。

〔議決を終えて〕

この度の件について、多くの市民の皆様をはじめ、全国のアニメファン、富良野市を応援される皆様に多大なご心配をおかけし、また、製作委員会をはじめとした、コンテンツ制作に携わる皆様に、多くのご対応を強いることとなり、大変申し訳なく思います。

一連の騒動を糧として、より一層の住民福祉の向上に向け努力を重ねてまいります。(議長)

令和4年 第4回 富良野市議会定例会議決結果表

令和4年11月30日～12月13日(14日間)

議案番号	事 件 名	議決月日	議決結果
(4年第3定) 認定第1号	令和3年度富良野市一般会計歳入歳出決算の認定について	11月30日	原案認定
(4年第3定) 認定第2号	令和3年度富良野市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	11月30日	原案認定
(4年第3定) 認定第3号	令和3年度富良野市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	11月30日	原案認定
(4年第3定) 認定第4号	令和3年度富良野市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	11月30日	原案認定
(4年第3定) 認定第5号	令和3年度富良野市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	11月30日	原案認定
(4年第3定) 認定第6号	令和3年度富良野市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	11月30日	原案認定
(4年第3定) 認定第7号	令和3年度富良野市水道事業会計決算の認定について	11月30日	原案認定
(4年第3定) 認定第8号	令和3年度富良野市ワイン事業会計決算の認定について	11月30日	原案認定
議案第1号	令和4年度富良野市一般会計補正予算(第10号)について	12月13日	原案可決
議案第2号	令和4年度富良野市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)について	12月13日	原案可決
議案第3号	令和4年度富良野市介護保険特別会計補正予算(第2号)について	12月13日	原案可決
議案第4号	令和4年度富良野市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)について	12月13日	原案可決
議案第5号	令和4年度富良野市簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)について	12月13日	原案可決
議案第6号	令和4年度富良野市水道事業会計補正予算(第1号)について	12月13日	原案可決
議案第7号	令和4年度富良野市下水道事業会計補正予算(第1号)について	12月13日	原案可決
議案第8号	富良野市財政調整基金の処分について	12月13日	原案可決
議案第9号	富良野市職員の降給に関する条例の制定について	12月13日	原案可決
議案第10号	富良野市職員の定年を延長することに関する関係条例の整理に関する条例の制定について	12月13日	原案可決
議案第11号	富良野市議会議員の議員報酬及び費用弁償等の支給条例の一部改正について	11月30日	原案可決
議案第12号	富良野市パートタイム会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部改正について	11月30日	原案可決
議案第13号	富良野市長、副市長及び教育長の給与等に関する条例の一部改正について	11月30日	原案可決
議案第14号	富良野市職員の給与に関する条例の一部改正について	11月30日	原案可決
議案第15号	富良野市フルタイム会計年度任用職員の給与に関する条例の一部改正について	11月30日	原案可決
議案第16号	富良野市子ども・子育て会議設置条例の一部改正について	12月13日	原案可決
議案第17号	市道路線の認定及び廃止について	12月13日	原案可決
議案第18号	指定管理者の指定について(山部自然公園太陽の里)	12月13日	原案可決
議案第19号	指定管理者の指定について(金満緑地公園パークゴルフ場)	12月13日	原案可決
議案第20号	指定管理者の指定について(東山公園パークゴルフ場)	12月13日	原案可決
議案第21号	富良野市固定資産評価審査委員会委員の選任について	11月30日	選任同意
議案第22号	富良野市固定資産評価審査委員会委員の選任について	11月30日	選任同意
議案第23号	令和4年度富良野市一般会計補正予算(第11号)について	12月13日	原案可決
議案第24号	清水山線道路改良工事(第1工区)請負契約の変更締結について	12月13日	原案可決
議案第25号	議員の派遣について	12月13日	原案可決
諮問第1号	人権擁護委員候補者の推薦について	11月30日	適任
意見案第1号	子どもの新型コロナウイルス感染症対策緩和を求める意見書	12月13日	原案可決
意見案第2号	消費税のインボイス制度(適格請求書等保存方式)の円滑な導入に向けた事業者支援の早期実施を求める意見書	12月13日	原案可決
その他会議に付した事件	議員の派遣に関する報告	11月30日	報告済
	所管事項に関する委員会報告		
	・事務調査報告(総務文教)	11月30日	報告済
	・事務調査報告(市民福祉)	11月30日	報告済
	・事務調査報告(経済建設)	11月30日	報告済
	所管事項に関する都市事例調査報告		
	・都市事例調査調査報告(総務文教)	11月30日	調査済
	・都市事例調査調査報告(市民福祉)	11月30日	調査済
	・都市事例調査調査報告(経済建設)	11月30日	調査済
	発議 議員の派遣について	12月13日	決定
	監査委員報告		
	・月出納検査結果報告(令和4年度7月分～9月分)	11月30日	報告済3件
	閉会中の所管事務調査について(総務文教・市民福祉・経済建設)	12月13日	許可3件

議決結果

ここが聞きたい! 一般質問

令和4年第4回定例会において5人の議員が一般質問を行いました。文責は、質問者にあるものとして、質問・答弁の要旨を掲載しております。なお、議員顔写真は質問中ではなく、別途撮影した写真です。

質問者が収録されている動画のタイトル、動画上で質問が開始される時間は下記のとおりです。

・富良野市議会 議会中継 (令和4年12月7日)			
渋谷 正文 議員		01分 12秒	ごろ
本間 敏行 議員	1時間	02分 09秒	ごろ
宮田 均 議員	1時間	22分 56秒	ごろ
佐藤 秀靖 議員	2時間	17分 51秒	ごろ

・富良野市議会 議会中継 (令和4年12月8日)			
大栗 民江 議員		49秒	ごろ



富良野市議会のYouTubeチャンネルでは、議案質疑や一般質問など、本会議のすべてを視聴できます。左のQRコードを読み込むとサイトに接続できます。

シビックプライドとは何か

〔ふらの未来の会〕
渋谷 正文

問 シビックプライドを高めるために本市のシビックプライドに関する定義及び現状認識は。

答 シビックプライドは、地域の魅力や、共創の取り組みによるまちづくりへの関わり、それらに起因する地域への愛着心など、地域に対して市民それぞれが抱いている市民の誇りと認識している。

問 本市のシビックプライドと市民憲章との違いは何か。

答 シビックプライドは、まちを大切にしたい、応援したいという個人の気持ちの表れであり、市民憲章は、市民の総意でまちの目指すべき姿を示すものである。

問 本市のシビックプライドの醸成の向上における今後の戦略は。

答 共創のまちづくりとともに、富良野らしい事業の推進などの各種イベントを通じて、地域資源・魅力の認知度をより高め、また、シテイプロモーション戦略を構築・実践する中で、市内外への情報発信により、シビックプライドの醸成に努める。

問 郷土愛につながる富良野でしかない体験の推進について現状の評価は。

答 地域の特性や資源を生かした特色ある教育活動を進めるため、各学校では、ふるさとキャリア教育として、まちの将来を担う子どもたちが、自分たちの暮らす地域を深く知り、郷土愛を育むことを目的に、成長段階に応じた実施をしている。子どもたちにおける郷土愛の育成、自己有用感・肯定感の醸成につながっていると考える。

〈その他の質問〉

○コミュニティ・スクールの現状とあり方、地域との連携・協働による教育活動の充実のための支援について

富良野市民憲章 昭和44年7月28日制定

わたしたちは、北海道の中心標が立つ富良野の市民です。わたしたちは、この美しい自然の環境につつまれながら新しい生産都市をつくりあげるために自信と誇りをもって進みます。

- 1 明るく 健康で働くまち富良野
- 1 あたたかく みんなの幸せを願うまち富良野
- 1 大きく 未来に生きる知性のまち富良野

富良野市民憲章

市民の安全・安心を守る除排雪業務を目指す

本間 敏行

〔ふらの未来の会〕



除排雪業務について

問 町の中心部で見られる、堆積された雪により、道路の蛇行や交差点の見通しが悪い状況の改善対策は。

答 除雪は道路の雪を左右に寄せる作業となり、路肩に堆積した雪で車道幅員が確保できない場合や交差点に積み上げられた雪により見通しが悪くなっている場所を対象にカット排雪を実施している。

特に幹線道路や通学路、交差点等はパトロールを強化し部分的な排雪作業も実施しているが、排雪後に雪が車道に積み上げられる状況もあり、連合町内会長会議や報誌などで、除排雪業務に関する協力をお願いしている。

今後も、道路幅員の確保、路面状況の変化に応じた除排雪と道路への雪出し防止を、粘り強く周知徹底を行う。

問 大型バスやコンテナ車等大型車両の通行も多い朝日通及び若葉通の幅員確保は。

答 大型車両の通行も多い路線であり、また、除雪作業の際の作業路線にも利用することから、随時パトロールしながら危険箇所を把握し安全確保に努める。



排雪が待たれる道路

問 幹線道路と住宅地や生活道路との交差点の除雪時の取り残しは。

答 通勤時や通学時の交差点の除雪が遅くなる場合には、委託業者と情報を共有しながら、改善に向けた対策について協議を行う。

問 GPS機能を使用した除雪管理システムを導入した成果と課題は。

答 車両の位置情報や、除雪時間について効率化が図られた。本年度は、除雪の出勤を判断する深夜パトロールの負担軽減を目的とした積雪情報監視カメラを3地点に設置し、実証実験を行う。

JR根室線(富良野―新得間)の存続と活性化の考えは

宮田 均

〔無党派〕



JR根室線(富良野―新得間)について

問 バス転換への協議は。

答 鉄路存続のため、年間10・9億円を負担することは困難であることから「新たな交通体系ルート案」の具体化に向け協議を進めている。

既存バス路線を活かしたルート案具体的な運行ダイヤ、利用者の利便性が確保されるよう検討している。

問 新千歳空港から、トマム―幾寅―富良野のJR存続は、今後の観光にも有効と考えるが。

答 平成28年の大雨災害による復旧が前提となることから、実現の可能性は無いと認識している。

問 富良野駅の利用促進に向けた取り組みとして、駅のバリアフリー化と、サイクルトレインを運行する考えは。

答 駅のバリアフリー化は鉄路の利用促進のため重要と認識し、引き続きJRと協議していく。サイクルトレインは安全面と積載スペースの確保など、本格導入は難しい。

邪神ちゃんドロップキック×富良野編について

問 内容の検証と今後の作品の使用方は。

答 制作側からの提案時の協議以来、その後もプロットの提示などその都度、庁内関係部署、市内関係団体と協議を重ね作品の活用方法など検討した。観光振興を図る目的を達していると評価している。釧路市、帯広市とも、道東地区との周遊目的とした誘客事業、イベントの連携など協議、今後も制作側の御協力も含め、具体的な策について検討していく。

△その他の質問▽
・新庁舎について



根室線を走るキハ40

市民が自慢できる環境政策を目指して

佐藤 秀靖

〔ふらの未来の会〕

富良野市が取り組むべき環境政策の在り方について

問 黄色いごみ袋(固形燃料ごみ)から製造されるRDFのほとんどは市外に搬出し売却されている。

昨今の燃料費高騰などで運搬経費が高みRDF売却収入を上回り赤字となっている。RDFの市内での消費や有効活用が必要と考えるが見解は。

答 RDFの市内利用拡大は必要であると考えている。市内2ヶ所で稼働しているRDFボイラーで培った知見を活かし、一定した熱源を長時間必要とする熱供給事業がRDFに適していると考えているので調査研究を進めていく。

問 環境を基軸とした産業・観光の好循環サイクルの構築は前環境基本計画から引き継ぐ現計画のコンセプトである。

テレビドラマ「北の国から」放映40周年記念事業が終了し、ドラマのコンセプトを受け継いで将来に残すためロケセットやロケ地を「環境問題について考える施設やテーマパーク」として「見せ方を変える」ことにより、本市のリサイクルや脱炭素社会構築に対する積極的な取り組みをアピールするこ

とができるかと考えるが見解は。

答 「環境」は市民生活と密接に関係し農業をはじめとする産業の活動資源や、本市観光の魅力である自然景観を守り支える観光地づくりを行なう上で重要である。

先進的かつ市民の誇りでもある「資源リサイクル」の取り組みを国内外の来訪者にどう伝えていくべきか等協議している。

こうした協議と「北の国から」のコンセプトはリンクするものと思えており、今後どのような情報発信手法が有効かなど、ロケ地活用の在り方を含め検討する。



ドラマ「北の国から」ロケセット~拾ってきた家~

補聴器購入に対する助成を

大栗 民江

〔無会派〕

高齢者の聞こえと孤立・孤独を防ぐ取り組みについて

問 富良野市の11月末人口は2万234人、65歳以上は7018人、75歳以上は3861人、高齢化率は34.7%になった。平成30年の一般質問では、2025年には、認知症高齢者は少なくとも850人程度と見込まれ今後増加するとの答弁であった。難聴は、認知症とも密接に関係すると思われるので、現状と市の取り組みは。

答 国立長寿医療研究センターによると、70歳代以上で、男性は5人に1人、女性は10人に1人が難聴を抱えている可能性があると考えられており、一定数の加齢性難聴者がいると捉えている。身体障害者手帳交付者には、補装具としての補聴器購入費の助成を行っている。

問 補聴器の購入費用は高額なので、平成30年度から耳鼻科を受診し「補聴器適合に関する診療情報提供書(2018)」を認定補聴器技能者がいる店舗で提出し購入すると医療費控除の対象になる場合がある。難聴に関する周知啓発や医療費控除等の情報提供について市の考えは。

答 高齢者と会話する際に、配慮

するポイントや補聴器の購入費用が医療費控除の対象となる場合があることなど、ホームページや広報紙を通じて情報提供を図っていく。

問 国の保険者機能強化推進交付金を活用して財源を確保し、補聴器購入助成事業を導入する取り組みについて市の考えは。

答 国の動きを見極めるとともに制度設計の検討に向け、第9期富良野市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定にむけたアンケート調査の中で、聞こえや補聴器のニーズの把握に努め活用できる交付金等について調査研究する。



聞こえを助ける各種補聴器

調査第4号 自主財源の確保について

【最終報告】

総務文教委員会

都市事例調査報告 自主財源の確保について

総務文教委員会

自主財源とは地方自治体が自主的に徴収できる財源で、独自に調達できる財源を指します。本委員会では、特にふるさと納税について議論が集中しました。本市での寄附額は年々増加しており、返礼品の内容についてはメロンやワインなどの特産品が中心となっています。寄附拡大に向けた取組として、地域おこし協力隊による各種媒体を使った情報発信のほか、富良野市地域特産品・ふるさと納税返礼品開発等支援事業として開発経費の一部補助なども行っています。企業版ふるさと納税についても企業向けチラシを作成し、企業等への案内を行っています。

以上のような取組などを踏まえ、意見交換を行ったところ、委員会として次の点において意見の一致を見た次第です。

1. 富良野らしさを活かした取組を進める中で、所得層別のターゲットを絞った返礼品の検討や、モノだけではない来訪してもらう仕掛け、現地で寄附しその場で受け取る等の検討と、使途については所管課から具体的な事業提案を受け、寄附者へ提示していくよう

な取組も必要と考える。

2. 企業版ふるさと納税における奨励金事業についても、官民連携の中で意見を取り入れる仕組みと合わせ、調査研究を進めるとともに、そのうえで地域性や特性を活かした情報発信も必要と考える。

3. 自主財源の取組は広告事業、未利用財産の売却、貸付など様々あるが、特に未利用財産の売却は企業誘致や雇用確保にも繋がることも考えられるため、未利用財産の有効活用を推進されたい。

4. 各種行政サービスの維持のためにも新たな財源として宿泊税導入など検討の再開をすることも必要と考える。地域の実情に沿った対応ができるよう調査研究に努められたい。

最後に、ふるさと納税を通して、本市の魅力が伝わり、関係人口の増加にも大きく寄与できる取組が実践されて行くことを切望します。



【神奈川県横須賀市】

主にふるさと納税の取組について調査を行いました。返礼品が少ない状況のなか、悩みながらも積極的な財源確保を進めてきているという点では本市と共通するところがあります。実績が伸びてきている背景として、高額返礼品を加えたこと、工業製品のみならず、返礼品の対象となるアイテムに係わる企業をうまく活用し、美術館観覧券やレストラン食事券など、多様化につとめています。また、高所得者層からの寄附の割合が高いことを受け、高所得層向けの無料雑誌などに有料広告として掲載しています。

企業版ふるさと納税においても民間事業者との連携を強化し、事業者から自由な提案を受けたうえで企業版ふるさと納税を財源とした奨励金事業として支援を行っています。

地域性や特性を活かした効果的な露出や、寄附者が活用しふさわしい事業を選択できるといふこと、またその事業については所管課からの提案に基づいて組み立てられていることなどは非常に参考にな

りました。

【長野県軽井沢町】

主に家屋敷課税の取組について調査を行いました。

軽井沢町は全国でも有数の別荘地であることから家屋敷課税として町県民税の均等割の課税を行っています。行政上の施策としてごみの収集、環境衛生、防犯・防災、道路整備等、各種行政サービス利益を享受し、住民に準ずる立場と考え、財政収入の一部負担を求めようとするものでした。

全国の自治体で3割程度、北海道内では旭川市、ニセコ町を含む12自治体のみが課税している現状であります。考察としては、本市のように人口減少が続いているところでは、空き家を含む、常住しない家屋敷が地域全体で増加することが今後も想定されます。各種行政サービスの維持のためには新たな財源として検討することも必要と考えますが、地域の実情に沿った対応ができるよう本市でも調査研究に努めていく必要があると感じました。

調査第5号 健康増進について

〔最終報告〕

市民福祉委員会

本市では、市民の健康増進に資する3つの計画（国民健康保険第二期保健事業実施計画、第三期特定健康診査等実施計画、第二次健康増進計画）の終期を令和5年に統一し、総合的に市民の健康増進に取り組んでいます。

委員会では「健康で生活できる環境づくり」として、ポピュレーションアプローチ（健康教育・健康相談等）が重要であるとの認識のもと、行政の取組の「見える化」と「伝える化」が重要と捉え、次の点について意見の一致を見た次第です。

1. 健康増進や健幸都市に関する方針を条例や都市宣言などで明確に示されたい。

市民一人ひとりの健康は地域の財産であり、健康でいることが社会貢献であるという意識を醸成し、市民の行動を変容させていくことが重要です。そのためには、市の考えや方針を条例や都市宣言などで明確にすることが効果的です。

2. 健康無関心層に対して多角的なアプローチに努められたい。
具体的には1点目、健康ポイント、ソーシャルネットワークワーク

ンセンティブ（人のつながりや協働行動が生み出す社会的圧力）の考え方を参考にすべきです。2点目、健康まちづくり指導員などの人材育成を検討すべきです。3点目、歯・口腔の健康は心身の健全な成長の源であり、市で実施している歯周病検診の対象を20歳及び30歳にも拡大すべきです。4点目、スポーツセンターやふらっとなどと連携した取組を検討すべきです。

3. 健康都市づくりに向けた機運の醸成に努められたい。
健康メニューの開発・普及は、健康無関心層の掘り起こしに効果的で、健康を意識した体験プログラムは「健康観光」の新たなコンテンツとしても有望であり、調査研究を進めるべきです。

「健幸都市」という考え方は、現代社会において必要不可欠な時流に乗った考え方で、「市民の健康増進」は「まちづくりの根幹である」という考えのもと市政全体で取り組むべき政策であり、「健康増進」を深化させ、「健幸都市」づくりに向けた機運の醸成が極めて肝要です。

都市事例調査報告 健康増進について

市民福祉委員会

〔兵庫県豊岡市〕

豊岡市の「健幸都市」実現を目指した行政運営は、「豊岡市いちへの共感に満ちたまちづくり条例」や「豊岡市歩いて暮らすまちづくり条例」に反映され、これらのコンセプトは豊岡市基本構想や下位の計画にも盛り込まれ体系化され、行政の目指すべき方向性がわかりやすく、「見える化」している工夫は、大変参考となりました。

また、市民の協力が不可欠であるとの認識のもと、「健康のまちづくり指導員」制度を導入し、市民と行政のパイプ役として機能しており、また、指導員自身もやりがいを感じ、取組に好循環が生まれていることから、本市でも調査研究すべきと考えます。

健康ポイントの取組については、ソーシャルネットワークインセンティブという考え方で、学校や地域に還元できる仕組みも構築しており、健康無関心層への新たなアプローチの手法として、大いに参考になりました。

〔兵庫県西脇市〕

西脇市は、岩手県、福井県、京

都府の4つの自治体で、PFS（成果連動型民間委託契約方式）を導入して、ICTを活用した飛び自治体連携による健康ポイントプログラム事業を実施し、医療・介護費抑制効果6.5億円、健康投資効果6,000万円を見込んでいます。

PFSを導入することで、民間組織や外部有識者の知見やノウハウを最大限活用し、重層的・複合的に本事業の制度設計しており、事業目的・目標・KPI（重要評価指標）の根拠を明確にすることにより、行政が目指す方針が明らかで、市民の健康増進に関する行政の考え方や意図への理解が得られやすくなっており、参考となりました。

また、インセンティブによる外出促進策として、飲食店の健康メニューの開発や普及など、観光交流も見据えて事業展開されています。本市においては、「健康観光ふらの」という新しい観光コンテンツ確立の可能性を秘めており、経済波及効果も期待できることから、大いに参考になりました。

調査第6号 公営住宅について

【最終報告】

経済建設委員会

本市では、「富良野市住生活基本計画」を上位計画とする「公営住宅等長寿命化計画」を策定し、その計画期間は、令和3年度から15年間とし、概ね5年ごとに見直しを行いライフサイクルコストの縮減等を目指しています。

本市の公営住宅の管理戸数及び棟数については、令和4年3月末現在の管理戸数は619戸で管理棟数は138棟と、国の補助を受けていない単費住宅は6戸で3棟あり、このほか、道から指定管理を受けた道営住宅は72戸で6棟となっており、合計した管理戸数は697戸で、管理棟数は147棟となっています。

入居状況については、65歳以上の高齢者割合が44.6%と多く、若い世代の入居応募が少ないことに対しての課題はないのかとの意見が出されました。

今後の管理戸数の推計結果については、道営住宅を含み令和17年度で574戸と示されています。バリアフリー化された特定目的住宅については、市営住宅84戸道営住宅24戸ありますが、入居希望者が多く倍率が高いことも課題であると云えます。

現地調査及び都市事例調査による先進事例の調査を参考に議論を深め、バリアフリー化への対応、省エネ対策、入居応募者の世代の偏り、政策空家の扱い、既存住宅建て替えに向けた諸課題、民間借上げをはじめとした住宅供給方法などが挙げられましたが、次の4点について意見の一致を見たところです。

1. 高齢者や障がい者、小さな子どもを育てる世帯など、入居者の構成やライフステージに合わせた多様なニーズに応えるとともに、多世代による団地形成に向けた施策の検討を進められたい。

2. 本市の目指す「ゼロカーボンシティ」の実現に向けた取組を進められているが、本市の自然環境を活かした公営住宅の在り方について、調査研究を進められたい。

3. 政策空家については解体撤去を基本としつつ、建物や跡地の売却を含めた利活用を検討されたい。

4. 今後の公営住宅の供給については、民間資金や活力を活用するPPP（官民連携）方式による整備や、民間賃貸住宅家賃補助制度の活用など、多様な方法について調査研究を進められたい。

都市事例調査報告 公営住宅について

経済建設委員会

【茨城県ひたちなか市】

民間賃貸住宅家賃補助制度についての考察として、民間賃貸住宅家賃補助制度は社会資本整備総合交付金事業の対象にもなっていることから建替えと家賃補助制度とコストの比較をし、多くの入居ニーズに応えることができる家賃補助制度は有効な手段と考えます。世代別に供給方法を検討する例として参考となりました。また、認定事業者には、賃貸住宅への新たな入居者を獲得すること、空き室対策に繋がることから地域の活性化に寄与すると考えられ、行政においても管理の省力化が期待できるなど、柔軟な判断が可能となる仕組みとして、調査研究するに値する制度であるといえます。

【愛知県瀬戸市】

高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業についての考察として、入居者の安否確認を、生活援助員の巡回訪問に加え各種センサー類を用いている点は、高齢者世帯の生活において安心確保の面で大きな役割を果たしていると思われ、特に、日常生活から介護認定までの隙間を埋める取り組みとして、シルバーハウジングは大きな役割

を果たすものと推測されます。また、瀬戸市では新築する際に設備整備を行っています。本市の既存公営住宅にこれらの設備導入が可能か等の技術的課題や高齢者専用住戸となり、他の入居希望者を阻害する可能性もあり調査研究が必要と考えられます。

【愛知県豊田市】

市営樹木住宅買取整備事業と家族形成期支援住宅による定住促進についての考察として、樹木住宅整備事業は、PPP方式（官民連携）による設計から完成までの期間の短縮と費用の低減を図った整備手法で、あえて低層かつ木造の住宅とすることで、多世代入居を実現、さらに中庭空間の整備によりコミュニティ形成を促す住宅配置が特徴であり、多世代のニーズにこたえた樹木住宅の取組は、今後の公営住宅整備の参考と思われる。また、家族形成期支援住宅として、市内への定住促進に向けて、着実に成果を上げつつあり、本市でも検討する必要があると考えられます。

可決された意見書(抜粋)

第4回定例会において議員提案された意見書は2件です。意見書は可決後、直ちに関係機関へ送付しました。

子どもの新型コロナウイルス感染症対策緩和を求める意見書

学校における感染症対策では、常にマスクの着用、手洗い・消毒、密にならない活動、黙食が推奨され続けられ、今夏は、登下校や体育授業でのマスクを外すことが推奨されていた。しかし、未だに多くが習慣化したマスクを着用している状況が見られる。教育現場で感染者を出さないことが主眼とされることにより、多くの学校で屋外授業でもマスクを着用させたままとなっているのが現状である。本来マスクの着用は任意であるにもかかわらず、実質強制とも言える状態は、子どもの権利条約を無視していると考えらる。

マスク着用の学校生活が長期化する中で、各自治体が自主的に子どもの学校生活の規制を科学的に検証し、国の基準よりも緩やかにする取り組みが進められている。マスク着用の弊害から、子どもたちの健やかな成長と学びの場を守るため、「子どもの感染症対策の見直し」と、全国一律に徹底されるように国に強く求める意見書。

消費税のインボイス制度(適格請求書等保存方式)の円滑な導入に向けた事業者支援の早期実施を求める意見書

令和5年10月からインボイス制度(適格請求書等保存方式)の実施に向けた準備が進められ、これは事業者間の取引慣行に影響を与え、事業者間免税点制度を実質的に廃止しかねない。また取引から排除されたり、不当な値下げ圧力等を受けたりする懸念、請求書システムの改修など、事業者にとって多大な事務負担が生じる。

国は、事業者の準備状況や取引への影響の可能性を検証し、その結果に基づいて必要な措置を講じるとしている。

しかしながら、コロナ禍の影響もあり、国においてこうした十分な調査、実態把握を行った上での検証は行われておらず、周知についても不十分である。

国は、免税事業者の取引排除等による倒産・廃業の可能性を含めた「検証」を、早急に行い、事業者負担の軽減措置等、支援策の措置を求める意見書。

議会日誌 ~令和4年11月から令和5年1月の議会関係の開催状況をお知らせします~

11月

- 1日・令和3年度決算審査特別委員会
- 2日・令和3年度決算審査特別委員会
・議会広報特別委員会
・議会報告会役員会
- 4日・令和3年度決算審査特別委員会
・総務文教委員会
- 7日・市民福祉委員会
- 8日・第5回臨時会告示
・総務文教委員会
- 9日・議会報告会(複合庁舎)
- 10日・議会報告会(ふれあいセンター)
- 11日・経済建設委員会
- 14日・議会報告会役員会
・市民福祉委員会
- 15日・議会運営委員会
・第5回臨時会
・令和3年度決算審査特別委員会
・総務文教委員会
- 16日・経済建設委員会
- 18日・市民福祉委員会

- 21日・総務文教委員会
・代表者会議
- 22日・第4回定例会告示
- 24日・議会運営委員会
- 29日・議会運営委員会
- 30日・第4回定例会(1日目)
・議会広報特別委員会

12月

- 1日・議会報告会役員会
- 2日・代表者会議
- 6日・議会運営委員会
- 7日・第4回定例会(2日目)
・議員協議会
- 8日・第4回定例会(3日目)
・議会運営委員会
- 13日・第4回定例会(4日目)
・議員協議会
・議会報告会役員会
- 15日・市民福祉委員会
・総務文教委員会
- 20日・富良野沿線市町村議会議員研

修会

- 21日・議会報告会動画配信開始
- 22日・経済建設委員会
- 23日・議会広報特別委員会
・市民福祉委員会
- 30日・仕事納め

1月

- 6日・仕事始め
- 12日・経済建設委員会
- 13日・議会広報特別委員会
- 17日・総務文教委員会
- 19日・第1回臨時会告示
・市民福祉委員会
- 20日・議会広報特別委員会
・経済建設委員会
- 26日・議会運営委員会
・第1回臨時会
・総務文教委員会
・代表者会議
- 31日・議会報告会動画配信終了

令和4年度 議会報告会について

本年度の議会報告会は、コロナ禍でもありますが、市民の皆さんのご参加、ご協力により2会場ではあります。ご実施することができ

ました事に深く感謝申し上げます。昨年度は実施することができず、動画配信としたところですが、本年度は対面での実施を目指し、関係者の意見をいただき検討した結果、15会場での開催は難しいとの結論により、2会場、4回の開催とさせていただきます。

会場で出されたご意見、ご質問の一部をご紹介します。

問 新庁舎の入り口に車椅子があるが、足の不自由な方のため、車椅子のみならず掴まれるような構造にしてほしい。

答 今後の新庁舎に伴う現況を説明するとともに、今後も検証していきます。

問 今回の報告会の取組は良いと思っただがスクリーンを見て、聞いているうちに内容を忘れるので、出席者には紙で配布してほしい。また、意見集約はどのようにしているのか。

答 紙での配布も検討していき

たいと思います。また、これまでの15会場での意見集約・回答については、15会場に置いてあります。

問 議会広報をカラーでやる理由は。白黒でもっとページを増やして説明を詳しくしても良いのでは。

答 広報特別委員会では、市民に親しみを持ってもらえる広報、手に取ろうと思える広報について検討を重ね今の形になりました。99号と100号は記念号としてカラーページを増やして作成します。

問 親のリフト代も高く、行くのにもお金がかかるので、今回の市民スキー割は有難い。市民スキー割2000円は続けてほしいし、子供を連れてスキーに行けるように環境を整えてほしい。

答 60周年記念ということでの市民割引で今年度限りと説明。スキー割を含めた環境整備の要望として話を承ります。

問 議会報告会は、若い人、女性が出席されるような実施をしてほしい。議員はどんな人がいるのかと、関心を持ってもらえるようにそして議会側から地域に出向くという姿勢であって欲しい。

答 来年のコロナの感染状況を見

定め、地域に出向き、開催を工夫し、多くの会場で開催できるように努めていきます。

問 議会の休憩が多い。オンラインなどところで議論して欲しい。

答 休憩が多いことについて、議員から一般質問は事前に通告し、通告範囲内での議論が基本で、範囲を超えた場合は休憩となります。議員側も論点整理の充実や手法を磨いていきます。

問 年々減っている人口問題について。人口減少を止めるための議員の考えは。

答 人口減少問題は課題であると認識しています。人口減少対策としては、議員も様々な視点で質問してきました。そして実現したのが今回の医療費無償化です。人口減少は、どこの地域でも起こっていますが、減少のスピードを和らげることも必要であり、子育て支援を手厚くすることは必要だと言われています。移住促進や農業、商工業関係の担い手対策などについても一般質問を行っています。

問 自然の豊かさをアピールしてはどうか。

答 魅力発信については議論をしているところです。「シティプロモーション」として考えています。住んでいる人の満足度

も大切であり関係人口づくりも大事にするために、ふるさと納税、返礼品にも力を入れていく方向です。

問 市内高校の合併に関して、道教委の説明もあったが、詳しい説明がないと子どもも進路の選択に困ると思うが、説明会の開催など、統合までできることはないのか。

答 統合に関しては富良野市から道に申し入れをしたという前提です。統合後は緑峰高校の校舎を使い、空いた方の校舎を養護学校のようなものを誘致したいと要望していると伺っています。情報公開、市民への説明など、市に提言していきます。



議員派遣に関する報告

北海道市議会議長会道北支部議長会議員研修会について、派遣議員を代表して報告申し上げます。

本研修会は、上川町村議会議長会と共催により、10月26日に旭川市公会堂で開催され本市の参加は10名でありました。

「道北はコロナ禍をチャンスにできるか」と題して、株式会社日本総合研究所 調査部 主席研究員の藻谷浩介（もたに こうすけ）氏より講演を受け、道北地域においては、観光と農産物、少しの手作り工芸品により、経済的な基盤を確立させることができるとの提言をいた

だいたところでは。

一方、昭和的価値観をすて、国や北海道に依存することなく、自ら考え行動する、政策立案をするといった点において、大いに参考となったところであります。

また、「北海道の防災教育、被災者支援の充実に向けて」と題して、東北大学災害科学国際研究所助教の定池祐季（さだいけ ゆき）氏から講演を受けました。

本市は、大きな災害はないものの、日常からの備えが復興や被災者支援に重要な役割を果たすと感じたところであります。

都市事例調査申出

●各委員会では議長の許可を受け、閉会中、次のとおり事務調査を行います。

委員会名	調査番号	調査件名
総務文教委員会	調査第7号	I C T教育の推進について
市民福祉委員会	調査第8号	看護専門学校について
経済建設委員会	調査第9号	除排雪業務について



次回定例会（令和5年2月）のご案内

次回定例会の開催予定です。開会は通常10時となっています。

日	月	火	水	木	金	土
2/26	27	28	3/1	2	3	4
本会議						
5	6	7	8	9	10	11
代表質問		予備日		一般質問		
12	13	14	15	16	17	18
予算特別委員会				本会議		
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	4/1

議会日程は変更になる場合があります。

議会を 見る聴く

インターネット中継

本会議や一般質問はインターネット中継を行っています。

[富良野市議会インターネット中継](#) [検索](#)
インターネット生中継・録画中継

ラジオ放送

一般質問の質疑を編集したものをラジオふらので放送しています。放送日程については議会ホームページなどをご確認下さい。

議会を 読む知る

議会広報紙

定例会ごとに、議会広報紙を発行し全戸配布しています。ホームページからもご覧になれます。

議会ホームページ

議会ホームページでは、本会議や諸会議の開催案内や会議録などを掲載しています。ぜひご覧ください。

編集後記

▼富良野市議会だよりが発行されて100号を迎えました。

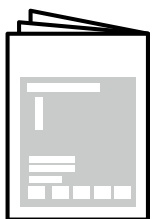
▼近年はパソコンやスマートフォンが普及し、ホームページやSNSなどによる情報発信が当たり前のようになりました。

▼そのような中であっても、今も昔も変わらないことがあります。

▼富良野市議会だよりは、紙面によって市議会の活動や動向を市民の皆様にお伝えする大切な媒体であるということです。

▼言葉を伝えるという作業に難しさを感じてはいますが、市民の皆様は、市議会への関心を持っていただけるように、「更に開かれた議会へ」「もっと親しまれる議会だより」に、見やすく分かりやすい紙面づくりを議員一同取組んでまいります。ご期待ください。

（副委員長 渋谷 正文）



発行責任者

議長 黒岩 岳雄

議会広報特別委員会

委員長 関野 常勝
副委員長 渋谷 正文
委員 小林 裕幸
〃 宇治 則幸
〃 大西三奈子
〃 宮田 均
〃 松下寿美枝



議会の 中から こんにちは

より読まれ より伝わる
市議会だより「フラノギカイ」へ

開かれた議会を目指して、市民の皆様により良い情報をわかりやすくお届けしようと取り組んできた市議会だより「フラノギカイ」が100号を迎えることとなりました。その100号記念特集として市民の皆さんから市議会だより「フラノギカイ」への一言をお聴きしました。これからも幅広い世代の皆様にご覧いただけるよう努力して参りますので、市議会だより「フラノギカイ」をご愛読いただければ幸いです。100号記念を出発点として、さらに新たな歩みを始めたいと思います。

みんなの voice

黒木 健太郎さん カラーになり見やすくなりました。デザインが工夫されているなど感じます。	西 裕美さん 市民の意見、要望を議会としてもっと沢山聞いてほしいです。	滝田 和広さん 毎回見えています。議員個人の意見を出してほしいです。	小松平 雅樹さん まとめられてとてもよいです。議会を見たいと思いました。	野原 武さん もっと情報量が多くても良いと思います。
南部 栄一さん 市民の身近な問題を取り上げてほしいです。	片平 大遥さん 若い世代の興味を引くように伝え方を考えて欲しいです。	蔭川 一雄さん 読んでいるが、知りたい情報と一致しない。議会に対する市民の声をもっと知りたいです。	菅原 直樹さん 100号おめでとうございます!字がもう少し大きければ嬉しいです。	両瀬 美好さん 専門用語の解説なども載せてもらえると分かりやすいと思います。
橋詰 亜咲美さん もっと写真を載せてもらえると分かりやすくなると思います。	飯沼 巖さん 未成年やご婦人の方の傍聴しやすい時間帯の議会を検討してはいかがでしょうか。	品田 杏莉さん 読むことで理解を深めました。知らないこともあるので注目したいです。	鎌田 彩加さん より良いまちづくりを期待しています。	高橋 穰二さん 地域住民が安心安全に生活できる体制づくりをお願いします。
西田 智貴さん 市議会の活動がよく分かります。高校生の意見も聞いてほしいです。	三浦 一華さん まちづくりをこれからも頑張ってください。	石山 廣喜さん 東山でのイベントなども議会広報で取材してほしいです。	藤田 久雄さん 表紙の写真がいい!立派になったと思います。	川越 志穂さん 写真や図解などを増やしてほしい。語録解説があるといいと思います。